



マラソンシーズン到来 ランニング講座



▲正しいフォームを意識した走り

10月6日、がめきん公園でランニング講座が開催され、市民ランナー22人が汗を流しました。講師は熊本城マラソン2019女子の部で優勝した岩村聖華さん。岩村さんは千原台高校在学中に全国高校女子駅伝に2度出場し、その後実業団でも活躍しました。

講座はストレッチなどの基礎から正しいフォームで走るための実践的な指導までがありました。全員が参加したミニ駅伝では岩村さんから学んだことを生かし、参加者はそれぞれのペースで走り抜き、全チームが完走しました。

西田精麦の技術をミャンマーに ハトムギの収穫後処理を学ぶ



▲機械の使い方の説明を受ける職員ら

9月30日～10月5日、ミャンマー国境省から3人の職員が西田精麦を訪れ、ハトムギの収穫後の品質管理や、加工、包装技術を学びました。

西田精麦は昨年からJICAの中小企業海外展開支援事業を活用して、農家を指導するミャンマー国境省の職員に加工・梱包技術を指導し、農産物に付加価値を付け、国内外の市場で適正な価格で買い取られるように支援しています。

ミャンマー国境省の職員らはハトムギの殻をむく機械の使い方について説明を受けると、熱心にメモを取ったり、質問したりしていました。

八代・県南を元気に 本町に2社の企業進出



▲関係者によるテープカット

4月23日に本市と立地協定を締結したMARUKUが10月1日、本町一丁目アーケード内に八代オフィスを開所。また、同日Webサイトの制作やスマートフォンアプリの開発などを行うファクトリーが「県南地域における企業誘致及び雇用創出に関する包括連携協定」の実績として本市では初めての進出協定を締結しました。

ファクトリーの澤田茂夫代表取締役が「県南地域の雇用創出に貢献したい」と意気込むと、中村博生市長は「中心市街地に若者を呼び込む拠点になってほしい」と話しました。

交通死亡事故ゼロを目指して 交通安全ポスター表彰式



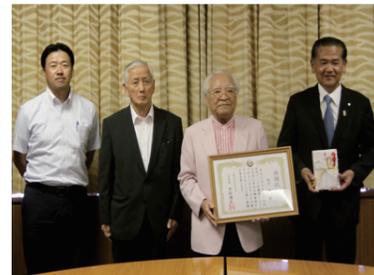
▲市長賞を受賞した中村さんとその作品

9月21日、交通安全ポスター表彰式が、ゆめタウン八代で行われました。

これは、市民に交通ルール遵守と正しい交通マナーの周知を図り、「子どもと高齢者の安全な通行の確保と高齢運転者の交通事故防止」などを重点項目として啓発に取り組みものです。

ポスターコンクールの市長賞に選ばれた中村陽菜さん（太田郷小学校5年）は「ドライバーは、歩行者に優しい運転を心掛けてほしいという想いで書きました。市長賞に選ばれてとてもうれしい」と喜びを語りました。

八代市のために ふるさと納税寄付



▲寄付をした田口さん（右から2番目）

9月17日、千丁町出身で東京で会社を営んでいる田口武さんが市役所鏡支所を訪れ、ふるさと納税の寄付金を中村博生市長に手渡ししました。田口さんは平成20年度から毎年寄付を行っており、今回12回目、計1105万円の寄付となります。

田口さんは「寄付金は子どもたちが将来社会で活躍するための教育に役立ててほしい」と話すと、中村市長は「長年にわたり寄付をしていただきありがとうございます」とお礼を述べ感謝状を手渡しました。

日本トップレベルの力を感じて しらゆりスポーツ教室



▲橋本コーチによる基礎打ちの指導

9月14日、八代百合学園高校体育館で、地域の小学生約70人を招いてバドミントン講習会が行われました。

再春館製菓所バドミントンチームの橋本博典コーチ（八代東高卒）とロンドンオリンピックで銀メダルを獲得した垣谷令佳コーチ、志田千陽選手と松山奈未選手らを講師に招き開催。橋本コーチは「普段から基礎打ちをウォーミングアップとしてではなく、練習として集中してやってほしい」と話し、子どもたちは、少しでも上手くなろうと全力でプレーしました。

八代の魅力を知る やつしる学生ラボ研究発表会



▲発表の様子

10月12日、やつしるハーモニーホールで、市内の高校生23人が参加して「やつしる学生ラボ研究発表会」が行われました。

これは、本市の高校生がインターンシップなどを行い、本市について調べ・学び、企業の魅力や本市の良さを再認識し、将来のUターンにつなげるために開催されたものです。

発表では、各企業が抱える課題解決のために「自転車や原付バイクで注文者の元に料理を届けるUber Eatsの活用」や「空き倉庫で映画を上映する」などの提案がありました。

八代産イ草・畳表の再興を目指す 畳表認知向上・需要拡大推進協議会設立



▲国産畳表を守るために集まった協議会のメンバー

10月9日、セレクトロイヤル八代で八代産イ草・畳表の再興を目指す「八代産畳表認知向上・需要拡大推進協議会」が設立されました。

同協議会は、現代の住宅にあった畳のある生活を提案するため、ゼネコンや床材製造メーカーなどが加わり設立。今後、大都市での広告展開などを行います。会長に就任した山中産業の重松秀樹会長が「イ草サ・畳生産者に希望を与えられるように、総力をあげて取り組む」と意気込むと、中村市長は「国産畳表の良さを多くの人に知ってほしい」と話しました。

市・市民・学校が一体となって応援 女子ハンドボール世界大会応援国抽選会



▲八代市全体で応援していきます

10月8日、八代ホワイトパレスで2019女子ハンドボール世界選手権大会応援国決定抽選会が行われました。各校区の代表者や学校関係者らが参加し、大会の成功に向けて機運を高めました。

この抽選会では、本市で試合を行う6カ国を応援するために、一校区一運動の応援国を抽選で決定しました。学校応援の一校一運動や市役所一部一運動も決定しており、大会終了まで市と市民、学校が一体となって大会を盛り上げていきます。

いざという時のために 八代市総合防災訓練



▲土のうを積み上げる消防団員と陸上自衛隊員

9月28日、球磨川河川緑地で八代市総合防災訓練が行われました。これは、災害応急活動の対処能力向上と防災関係機関の連携強化などを図ることを目的に開催。行政団体や防災機関など26団体、約500人が参加しました。

訓練は、豪雨で球磨川が氾濫注意水位に達したとの想定による水害対処訓練と日奈久断層を震源とするマグニチュード7.5、震度7の地震発生を想定した地震災害対処訓練を実施。避難所運営や人命救助、ライフラインの復旧などの手順を確認しながら、迅速に活動しました。

ハンガリー料理グヤーシュを体験 ハンドボール世界大会にちなんだ給食



▲グヤーシュを味わう児童

11月30日から2019女子ハンドボール世界選手権大会が開催されるのを前に、本市で予選ラウンドを戦うハンガリーにちなんだ給食が9月25日に東陽小学校など3校で提供されました。今回提供された料理はパプリカや牛肉、玉ねぎなどを煮込んだグヤーシュで、同国では、最もシボルのな料理といわれています。

子どもたちは給食センター職員の説明に耳を傾けながら、グヤーシュを味わい、堺心陽さん（東陽小学校3年）は「野菜がたくさん入っていておいしかったです」と話しました。

きれいな水を守りたい 下水道ポスターコンクール表彰式



▲市長賞を受賞した緒方さんとその作品

9月21日、イオン八代ショッピングセンターで、下水道の日「下水道ポスターコンクール表彰式」が行われました。

これは、作品を通じて下水道への理解と関心を深め、下水道の普及と活用を促進しようと本市と八代市管工事協同組合が開催しました。市内の小学生から100点の応募があり、市長賞には、緒方結菜さん（金剛小学校5年）の作品が選ばれ、「八代の水もホタルが生息できるきれいな水であってほしいという想いを込めて描きました」と語りました。